



信州 自然歴史 探訪 図鑑

諏訪大社 上社本宮

日本の屋根といわれる信州の、どちらの海からも一番遠い脊梁山脈の間に、諏訪湖があり、その湖南と湖北を向き合うようにして神社がある。南には諏訪大社上社、北には諏訪大社下社を祀っている。それぞれに建御方命とその妃八坂刀売命を奉り、信州一之宮であり全国お諏訪信仰の総御本社でもある。出雲の文化が日本海から姫川筋をのぼり、科野の国の州羽の海に來たと考えられ、別の氏族は天竜川をさかのぼり開拓を進め諏訪にたどり着いたことで神話とつじつまがあつてくる。十三世紀末の永仁の頃に諏訪には仏教が入ってくる。本宮の近くには神宮寺、如法院、蓮池院の真言宗三寺院と、天台宗で鎌倉時代臨濟宗となつた法華寺をはじめ二十余の院坊があつて明治維新まで八坊が残つていた。

上社のお鉄塔は源頼朝が修復したといわれ、本宮幣殿の奥にご神体として鎮座されている。社は拜幣殿と両片拜・脇片拜だけで本殿のない形式で、山を拜する奈良の大神神社によく似ている。諏訪氏は源義家の頃から活躍して、源頼朝の旗揚げには味方としてはたらく、信任厚く鎌倉諏訪氏として栄えた。当時の社殿がしのばれる記事はほとんどなく、織田信忠の軍が武田氏討伐に來てすつかり焼き払つたことが、上社大祝の諏訪頼忠が天正十二年に書いた「神興再造事書」から見えてくる。天正十八年日根野高吉が仮殿を造り、元和二年に諏訪頼水が本建築をした。天保三年に地元の工匠立川和四朗富昌の手により数年かかり改築されたのが今の神殿である。明治以降神社は日本第一大軍神として崇敬を集めてきた。

本宮をひとしお荘厳にしているものに社叢がある、社殿の背後一帯十萬坪という社叢は落葉樹が多く、春の芽吹き、秋の紅葉は見事である。社殿近くの目通りの胸高周囲七・二メートルのオオケヤキ、五・一五メートルのオオスギ、四・一三メートルのバラモミなどをはじめとする巨木の数々や、野鳥の森でも知られ、多様な植物の種に囲まれた社叢は、長野県の天然記念物に指定されている。

「あいさつ」



長野県環境測定分析協会
会長 酒井今朝重

長野県環境測定分析協会だより「ナチュラル」発刊にあたりましてひとことご挨拶を申し上げます。

長野県環境測定分協会々員の皆様には平素、協会の運営にご理解とご協力をいただきありがとうございます。創立以来環境計量証明事業の発展のため、環境計量に関する技術の向上と会員相互の会員相互の協調及び親睦を図り、もって生活環境の保全並びに改善に資するを会是とし、研修事業は基礎研修から専門研修までを行い、高い品質確保の為に精度管理事業もたゆむことなく重ねてまいりました。これも偏に日本環境測定分析協会並びに長野県環境保全研究所のご指導ご支援によるものと深く感謝しております。

近年、めざましい機器分析の進歩によって手分析から機器分析へと移行し、高感度や多元素同時分析など、さまざまな化学分析に対応できるようにになるとともに、機器の自動化およびデータ処理技術も電算化さ

れました。計量法においては昭和二十六年に施行され、その後数度の改正を経て平成四年に全部改正され今日に至っています。

環境測定分析機関に於いては、経済の安定成長期やバブル期には測定機器の導入や更新が進みましたが、バブルが崩壊し世界金融危機以降、日本の経済成長が縮小する中で地方自治体での業務委託を行う入札契約選定制度では、異常な低価格での落札という事態を招いています。

このような状況下では環境計量事業所の経営環境を脅かし、分析技術者の労働環境は悪化し、精度管理の安定確保や測定機器の適正な管理及び更新が迫られる検査機器の導入にも支障を来たすこととなって行きます。

環境測定分析事業が健全に維持し社会に寄与していくためには、精度管理の維持はもとより、地方自治体における環境調査分析などの役務等の入札において最低制限価格を導入していただき、適正な価格による事業の健全維持に向けて取り組むことが必要と思います。

環境分析業務が硬直化する中で、新規ビジネスモデルの開発が急務となっております。自由貿易協定・経済貿易協定そして二月に署名した環太

平洋戦略的経済協定が発効すると、長野県内も輸出入に大きく影響され、生産および消費構造に大きな変化をもたらします。輸出では国際規格等の導入によりブランド化を確立し、輸入品は監視指導・衛生対策・抜き取り検査体制の強化による高い安全性が必要となります。特に輸入製品のモニタリング検査は輸入全

「あいさつ」



長野県環境部
部長 関昇一郎

本年4月から長野県環境部長を務めております関 昇一郎でございます。

長野県環境測定分析協会の皆様には、日頃から本県の環境行政の推進に御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

また、協会として技術研修会の開催や、精度管理事業への参加等による会員の分析技術の向上に努められておりますことに敬意を表します。

さて、本県は四季の変化に富んだ全国でも有数の美しい自然に恵まれており、この豊かな自然環境を保全

体の一割で、うち民間検査機関が七七パーセントの検査を行っております。貿易協定が発効された場合に、現在のモニタリング検査量では長野県の産業と県民の安心・安全は守れません。県内における民間分析機関を活用し安全安心の確保を行うよう請願をしてみたいと思います。

し次世代に引き継いでいくことが強く求められております。そのため、県では平成25年に策定した「第三次長野県環境基本計画」に基づき、県民、事業者、行政などあらゆる主体の参加と連携により、基本テーマである「参加と連携で築く、豊かな環境・持続可能な信州」の実現を目指し、施策ごと達成目標を定め、毎年進捗管理を行いながら各種の取組を行っております。

このうち、水・大気環境の保全については、河川・湖沼及び地下水の水質常時監視や大気環境の常時監視、ダイオキシン類調査などを一部民間委託により実施しており、測定結果に基づいて環境基準の達成状況を評価しております。

また、27年3月の北陸新幹線の新潟延伸により、県内は多くの観光客で賑わっている一方で、北陸新幹線

のスピードアップに伴う騒音・振動による環境への影響が懸念されることから、県では、これまでの長野駅以南に加えて、長野駅以北の区間についても騒音等の測定を実施し、環境基準を超過した地域については、鉄道事業者等に対策を要請しているところです。

このほか、リニア中央新幹線の整備工事に伴う大気環境への影響の把握を目的とした、大気環境測定車（あおぞらIV号）による調査を行うなど、日々変化している環境に関する課題解消に向け取り組んでおります。

このように、本県の美しく豊かな自然環境の保全、そして県民の皆様への安心安全な暮らしを支えるための各種施策の検討、実施において、環境測定は大変重要な意義があると考えております。分析機関においては、精度の向上や測定分析能力の資質向上により測定結果の信頼性を確保していくことが今後とも求められております。

協会の皆様におかれましては、本県の環境の保全のため、引き続きご尽力を賜りますようお願いいたします。

結びに、今後の貴協会の益々の御発展と、会員皆様方の御健勝を心より祈念いたしまして御挨拶とさせていただきます。

ごあいさつ



長野県環境保全研究所
所長 西澤 清

今年の4月から長野県環境保全研究所長を務めております西澤清でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

長野県環境測定分析協会の皆様には、同じ環境関係の調査、測定、分析業務に関わるものとして、日頃大変お世話になり、また、当研究所の業務にご理解とご協力を賜っていることに対し、厚く御礼を申し上げます。

当研究所は、長野県の豊かな環境の保全と保健衛生の向上を図るため、様々な調査研究、試験検査、教育・研修、情報発信等の業務を行っております。

環境分野の具体的な業務内容といたしましては、生物多様性の保全や地球温暖化への適応策、諏訪湖の浄化対策などの湖沼や河川の水質保全、PM2.5や光化学オキシダントなどの大気汚染物質のモニタリングや調査研究、廃棄物最終処分場の水質等の調査を行っています。

また、保健衛生分野の業務は、感染症の発生動向調査や研究、食品中の残留農薬や放射性物質、医薬品や生活用品の検査を行っています。

昨今の環境問題は、地球温暖化など地球規模で把握される一方で、地域毎の対策が求められています。

昨年度に開始された文部科学省の「気候変動適応技術社会実装プログラム」では、国レベルの研究成果や適応計画を自治体の課題を踏まえ具体化することが求められており、長野県は当研究所が中心となり、モデル自治体として研究に参加しているところであります。

また、感染症についても、MERSやデング熱など、海外で流行している感染症が国内でも発生する可能性を危惧する報道が毎年のようにされ、昨年度からはジカ熱の発症が心配されています。食品の検査においても、近年は国内ばかりでなく海外を含めて食品が流通しており、県民の安全・安心のため、輸入食品にも対応した検査を実施しています。

このように広範囲にわたる問題への対応にあたりましては、官民を問わず、多くの皆様の参加と連携によって、一体となって課題の解決に向けて取り組むことが重要だと考え

ております。特に貴協会の皆様には、環境分野における技術的バックアップの面で大いに期待するところです。また、皆様には、研究所が実施する技術研修や分析精度管理事業へのご協力とご支援をいただき、心より感謝申し上げますとともに、

ごあいさつ



長野県計量検定所
所長 矢澤 弥彦

今年の4月から長野県計量検定所長を務めております矢澤弥彦でございます。

長野県環境測定分析協会の皆様には、日頃から県の計量行政の推進に御理解と御協力を賜っており、厚く御礼申し上げます。

また、貴協会におかれましては、分析技術の向上と信頼性の確保に積極的に取り組まれ、長野県の環境保全、環境対策において大きな貢献をされておりますことに深く敬意を表します。

さて、皆様方とともにその一端を担う「計量制度」は、貨幣制度と並び経済活動や社会生活全般を支える

今後の引き続きのお力添えをお願い申し上げます。

結びにあたり、貴協会の今後益々のご発展と、会員の皆様のご健勝とご活躍を心より祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。

大変重要な社会基盤です。今や私たちの生活の安全・安心に、また経済・産業の発展にとって「なくてはならない制度」として定着しています。

本県におきましても、明治26年に初めて長野県度量衡常置検定所が設置されて以来、組織は様々に変遷しましたが、一貫して「適正な計量の実施の確保」を目的に、地道に検定・検査等の業務を実施してまいりました。

近年は、技術の著しい進歩、国際標準との整合化、行財政改革等の流れの中で、計量行政を取り巻く環境も大きく変化しておりますが、この計量制度の重要性を認識し、知識と技術の研鑽に努め、引き続き適正計量の推進に向け努力して参りたいと考えています。

環境計量関係につきましても、計量法に基づいた環境計量証明事業の登録や環境計量士に関する事務、

計量証明検査等の業務を実施いたしますが、地球規模での環境問題が叫ばれる中、複雑化・多様化する社会ニーズに対応する上で極めて重要な事業であると認識してまいります。

貴協会におかれましても、昭和53年の設立以来「様々な環境問題の調査・測定・コンサルティングを通して長野県民の大切な生活環境を守る」ことを使命とし、各種事業を展開されておりますが、貴協会並びに会員の皆様方の役割は、今後益々重要かつ複雑になると思います。会員の皆様の英知を結集され、会員相互の連携を深める中で、困難な課題を乗り越え、業界全体がさらに発展されますことを大いに期待します。

計量検定所におきましても、貴協会並びに会員の皆様と連携・協力しながら、県民の安全・安心を計量の面から支えてまいりたいと考えていますので、今後ともよろしく御願ひ申し上げます。

最後に、貴協会の一層の御発展と会員の皆様の益々の御活躍を祈念申し上げます。御挨拶とさせていただきます。



第26回 (一社)日本環境測定分析協会 関東支部 環境セミナー in Yokohama(2015)

平成27年7月23日・24日 於:ホテルニューグランド

(一社)日本環境測定分析協会関東支部主催の環境セミナーが7月23・24日に横浜市山下公園に隣接するホテルニューグランドで開催された。昨年は長野県が開催県で協会技術部委員として運営に携わったが、今年は、技術部の主催で毎年実施している研修事業の一環として参加した。今回のセミナーは特別に、環境計量の仕事を中心とした業界で活躍する女性にスポットを当て『輝く女性の力』と題して企画され、第一会場(一般8題)とは別に女性発表者による会場が設けられ8題の発表があった。長野県からは協会員のご協力により9年間実施してきた酸性雨調査の結果について女性の技術部会の宮澤副部会長に発表を担当いただいた。

大会は日本環境測定分析協会の田中会長のあいさつでセミナーが開会した。

基調講演では「女性が働きやすい、働きがいのある都市の実現」に向けた施策を推進しており、横浜市環境創造局政策課環境プロモーション担当課長 遠藤寛子氏の市の環境政策を交えながらのお話の一つひとつに熱意が伝わってきた。



また、横浜らしく株式会社横浜八景島代表取締役 布留川信行氏の東北地震の時に八景島シーパラダイスの経営責任者として、企業の存在価値を職員の心の中に根付かせることが求められた中で、環境を考える企業としての活動についてお話された。

最後にパタゴニア日本支社長・辻井隆行氏によるアウトドアウェアメーカーのパタゴニアの理念、環境保護活動について幅広い活動が紹介された。

昨年は長野県が当番県として北條実行委員長のもと入念な準備を経て、分担された講演、技術発表の運営もすべて無事進行し、セミナーを終えることが出来た。それから早くも1年が経ち、今回のセミナーには役員を含め12名が参加し、懇親会では昨年からの引継ぎもあり和やかな交流が図られた。

そして、二日目の酸性雨調査の発表は長野県の会員による活動として非常に誇らしものでした。10年間、継続し、多くの会員が参加したことは、「継続は力なり」を示すものでした。

横浜の夏も暑かったが、発表も熱かった。

工場排水試験方法のJIS改正について

平成28年3月に日本工業規格に定める工場排水試験法(JIS K 0102)の3項目が改正(新しい分析技術の追加)されました。

規格改正の概要

1 COD_{Cr} (JIS K 0102 20.2)

蓋付き試験管を用いた吸光光度法による測定法が追加されました。
従来法と比べ、試料と試薬の量を減らすことができ、前処理操作も簡易になりました。

2 溶存酸素 (JIS K 0102 32.4)

光学式センサを用いた測定法が追加されました。
水中の飽和溶存酸素量の表がISO17289:2014に整合した表に変更になりました(飽和水による校正を実施する際には注意が必要です)。

3 全水銀 (JIS K 0102 66.1.1備考3、66.1.3)

還元気化原子吸光法の低濃度測定(0.5 μ g/L以下)に高感度の水銀専用原子吸光装置を用いた測定法が追加されました。
新たに加熱気化-金アマルガム捕集原子吸光法が追加されました。
どちらも試料と試薬の量を減らすことができ、加熱気化-金アマルガム捕集法では従来の溶媒抽出操作が不要です。

この改正で光学センサを用いた測定方法に採用されたLDO計を紹介します。

LDO計(蛍光式溶存酸素計)とは

●原理

センサキャップと呼ばれる蛍光物質が塗布された部分にLEDから光を照射した時の蛍光発光が酸素により阻害されることを消光現象といいます。酸素濃度が高いほど発光強度と発光時間が減少しますが、LDO計では発光時間と、励起光と蛍光発光の位相のズレから酸素濃度を求めます。通常は環境条件による補正(気圧や水温)を行います。

●LDO計を使用してみても

センサキャップ部分の酸素消費が少ないため無流速でも測定できますが、攪拌した方がより早く安定します。応答速度は隔膜電極の方が早く、特に濃度差の大きな試料の場合に顕著にみられます。実験室環境下ではとても安定していて、校正間隔も長めにとることができます。電源投入直後や、センサキャップを交換してもすぐに使えます。全体的に隔膜電極よりも手軽に使えます。使用方法を検討して特性を生かせれば、従来法よりも優位な点が数多くあります。

第15回
長環協ゴルフコンペ開催
総務部会

平成27年9月19日(土曜日)に第15回長環協ゴルフコンペが長野県茅野市にある三井の森蓼科ゴルフ倶楽部で開催されました。

日ごろの皆さんの行いが良いのか？

晴れ男が多いのかは判りませんが、当日は晴天に恵まれ絶好のゴルフ日和となりました。

日頃の業務とは懸け離れた形で皆さん親睦を深めていました。この様な催しはまだ参加された事の無い会員各社の皆様にとっても、他社の皆さんと親交を深める事が出来る絶好の機会です。今後の業務にもきつとお役に立つ事と思います。

また、景品も豪華な物を用意して頂いていますので今回は是非、御参加をお待ちしています。



- ◆開催日/平成27年9月19日(土)
- ◆会場/三井の森蓼科ゴルフ倶楽部
- ◆競技方法/18ホール 新ペリア
- ◆費用/プレー、飲食費各自負担
- ◆競技結果

順位	氏名・所属	からまつ	あかまつ	GROSS	H.C.	NET
優勝	武田淳志 (一社)長野市薬剤師会	41	48	89	13.2	75.8
準優勝	和田風義 (株)環境未来	52	48	100	24.0	76.0
3位	鈴木 孝 アズサイエンス(株)	51	42	93	16.8	76.2



第15回長環協ゴルフコンペに参加して

優勝者
インタビュー

9月19日(土)に開催された、第15回長環協ゴルフコンペに参加して参りました。出席者は14名、素晴らしいコースで天候にも恵まれてのラウンドと成りました。

私も久しぶりの参加で少々緊張気味のスタートと成りました。ゴルフ自体も年に1回程度しか行っていませんのでシャンクが出るのでは無いかと心配していましたが、幸いな事に同伴者(北條俊彦氏)(小川浩司氏)に恵まれましてシャンクも出ず、非常に楽しく回る事が出来ました。この様な会員相互の親睦の機会を作って下さった総務部の方に感謝致します。

締めパーティーでは会員同士との歓談もあちらこちらで見受けられ、時の経つのも忘れ懇親を深め、盛会のうちに閉会と成りました。皆さんも是非次回のコンペに参加してみてもは如何でしょうか。

武田 淳志



研修会参加レポート

Report2016

環境専門研修をうけて

一般社団法人長野市薬剤師会検査センター 小泉 誠志

金属類分析、細菌検査の研修に参加させていただきました。

金属類分析では、原子吸光度法とICP-MSIについてそれぞれの原理や特徴といった基礎のほか、試料の前処理から実際の測定、分析結果の処理、注意点等教えていただきました。

細菌研修では、平板培地法、液体培地法、メンブランフィルター法などについて、培地の作成方法から検査方法まで一連の流れを体験でき、その中でそれぞれの検査方法の特徴や注意点なども教えていただきました。

どちらも基礎から丁寧に教えていただき大変勉強になりました。この研修で学んだものを日々の検査業務に活かしていきたいと思っています。このような研修の機会を設けていただきありがとうございました。

わが社の ニューフェイス 第12回

環境未来株式会社
環境検査部

此田 滉さん

これからの
地球環境のために

私は高校在学中より地球環境に関する仕事に就きたいと考えておりました。

現代の地球では環境汚染が問題となつていて、環境を習い、自分の好きな分野で地球の環境を守るために何かできることはないか考え、今の職に就きました。採用していただいたことに感謝し、これから精一杯働きたいと思っております。

私の今の目標としては仕事を早く覚えることと、更に多くの資格を取得したいと思っています。具体的には公害防止管理者や環境計量士など資格にチャレンジして

いきたいと思っております。

先輩方にはまだまだご迷惑をお掛けすると思いますが、ご指導をいただき、毎日勉強に励み、できるだけ早く仕事を覚え、正確で信頼できる検査結果を出せる一人前の社員になれるよう頑張っていきたいと思っております。

十年後、二十年後、私が家庭を持った際に、子供に恥ずかしくない仕事をし、また会社だけでなく広く社会にも必要とされる人間になりたいと思っています。



事業所訪問

[第14回]

岡谷市

株式会社 コーエキ

当社の歴史は今から八十五年前、製糸用薬剤の製造、販売に始まります。当時日本の一大産業であった製糸業において、まだまだあまり使用されていなかった製糸用薬剤の研究・開発にいち早く着手し、その普及に努めました。製糸業の自動化とともに製糸用薬剤の需要は変化、増加しました。当社では研究を重ねてニーズに合った薬品を開発。全国の製糸工場に薬品を販売しました。

昭和四十年代になると

設立に至ったのです。

こうした過去の数々の経験と変化を踏まえ、当社では刻々と変化する時代のニーズに対応していくことを一つのモットーとして業務に取り組んでいます。今日では分析業務も多岐にわたり、企業から一般家庭まで幅広く分析依頼を頂いています。これからも当社では、お客様の声に耳を傾け、一人でも多くのお客様の問題を解決できるように、分析業務に励んでまいります。

隆盛を極めた製糸業も時代の流れとともに衰退し、昭和六十二年にはかの富岡製糸場も操業停止となりました。そうした中で当社は更なる主力業務を模索。お客様からの問い合わせをきっかけとして、工業製品の表面分析、クレーム解析業務に着目しました。英断の上、多額の投資と技術研修を経て、第三の主力業務であるテクニカルサーチ部門の



環境測定ひとくち知識

今回は環境測定で必ずといってよいほど測定されるpHです。pHを熟知されている方々に知識として記載するのは心苦しいのですが、敢えて取り上げました。

pHの読み方は「ペーハー」に馴染んでいる方がおられますが、昭和32年のJIS化で「ピーエッチ」に統一されました。環境分野ではpH測定は重要なもので、環境計量器として検定付きでない検体を測定し、得た数値は、計量証明とはなりません。pH以外の項目の測定時、例えばBODの測定時に、対象の検体が酸性、アルカリ性のいずれかに偏っていればpHを中和しなければ正しい測定値になりません。

当協会では、10年間酸性雨の調査を行ってきました。酸性雨の測定といえばpHの数値に関心が集まります。pHは0~14の範囲で7が中性です。pHを1上げるのに10倍の中性水を必要とされます。

pH測定、管理は環境分野以外でも重要で、ボイラの腐食防止、食品製造、水産の養殖、ゴルフ場の土壌などの管理です。近年、家庭菜園が盛んとなっていますが、土壌中のpHが農作物の栽培に影響を及ぼします。あなたの畑はpH値いくつ、気になりませんか？測定は当会の検査機関で！

私の趣味自慢

株式会社 信濃公害研究所

大島明美さん

私のたのしみとして、神社仏閣めぐりと新幹線や特急に乗って旅をすることです。最近では新幹線だけでなく、観光列車にも興味があり、肥薩おれんじ鉄道のおれんじ食堂、京都丹後鉄道丹後くろまつ号、丹後あかまつ号といった観光列車に乗ってランチをするなど、電車の旅を楽しんでいます。

肥薩おれんじ鉄道のおれんじ食堂では、その日、2両編成で私1人だけと貸し切り状態で緊張しましたが、とても心配りのあるサービスをしていただき、いい思い出になりました。丹後鉄道の丹後くろまつ号もレトロな感じでよかったです。

今後は、北海道新幹線等、東北レステラ鉄道の東北エモーションや残りのJR九州の観光列車も制覇したいと思っていますし、全国にはいろいろなおれんじ列車がありますので、気分転換をかねて堪能していきたいと思っています。できれば食事もできる観光列車は一人で乗ると寂しいので、一人旅ではなく、だれかと行くことができたら最高に楽しめそうです。



京都丹後鉄道 丹後くろまつ号



肥薩おれんじ鉄道 おれんじ食堂

長野県環境測定分析協会正会員一覧

- 北信**
- (一社)長野市薬剤師会
 - ユートピア産業 株式会社
 - 株式会社 ネイテック
 - (一社)長野県労働基準協会連合会
 - 株式会社 科学技術開発センター
 - (一社)長野県農村工業研究所
 - 直富商事 株式会社 環境計量証明事業所
 - 株式会社 エスコ

- 中 信**
- 株式会社 環境技術センター
 - (一社)長野県薬剤師会
 - 有限会社 林薬局
 - 株式会社 公害技術センター
 - 環境未来 株式会社
 - (公財)自然農法国際研究開発センター農業試験所
 - 株式会社 環境科学

- 東 信**
- 株式会社 信濃公害研究所
 - (一社)上田薬剤師会
 - オルガン製針 株式会社
 - 株式会社 東信公害研究所
- 南 信**
- 株式会社 コーエキ
 - (一社)上伊那薬剤師会
 - (一財)中部公衆医学研究所
 - 南信環境管理センター 株式会社

賛助会員 岡谷酸素 株式会社 / 株式会社 北信理化 / 高山理化精機 株式会社 / タカヤマケミカル 株式会社 / アズサイエンス 株式会社 / 株式会社 理学 / 株式会社 ミライ化成

編集後記

まずは、平成28年4月14日に発生した平成28年度熊本地震において、被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。一日も早く平穏な日常生活に戻れることを切に願うばかりです。

近年を振り返ってみても、世界規模で大きな自然災害が続いているように思われます。身近になってしまった自然の驚異にどう対処するべきなのか考えさせられます。人が快適さを求め進み続けるという流れは止めることができないことなのでしょう、しかしその流れから外れ、見方を変えて問い質すということも同じくらい必要なことなのではないでしょうか。変化は確実に自然界に表れてくると思われ、環境測定分析に関与している当協会だからこそ、その変化をキャッチすることができるとも思われます。

本誌の発行にあたり、原稿をお寄せいただきました皆さまに感謝申し上げます。今後とも皆様のご協力をよろしくお願い致します。

発行 長野県環境測定分析協会

編集 総務部

〒204-0001 岡谷市田中町3丁目3-24

TEL 0266-26-1155

TEL 0266-26-1155

TEL 0266-26-1155

TEL 0266-26-1155

TEL 0266-26-1155